

記載例②

病歴・就労状況等申立書

No. 一 枚中

(請求する病気やけがが複数ある場合は、それぞれ用紙を分けて記入してください。)

病歴状況	傷病名	診断書に記載の傷病名(例:大腸がん(S状結腸))	
発病日	昭和・平成・令和 年 月 日	初診日	昭和・平成・令和 年 月 日
記入する前にお読みください。 ○ 次の欄には障害の原因となった病気やけがについて、発病したときから現在までの経過を年月順に期間をあけずに記入してください。 ○ 受診していた期間は、通院期間、受診回数、入院期間、治療経過、医師から指示された事項、転医・受診中止の理由、日常生活状況、就労状況などを記入してください。 ○ 受診していなかった期間は、その理由、自覚症状の程度、日常生活状況、就労状況などについて具体的に記入してください。 ○ 健康診断などで障害の原因となった病気やけがについて指摘されたことも記入してください。 ○ 同一の医療機関を長期間受診していた場合、医療機関を長期間受診していなかった場合、発病から初診までが長期間の場合は、その期間を3年から5年ごとに区切って記入してください。			
1	昭和・平成 令和 5年 4月 10日 から 昭和・平成 令和 5年 5月 15日 まで 受診した ・ 受診していない 医療機関名	発病したときの状態と発病から初診までの間の状況 (先天性疾患は出生時から初診まで) 会社の定期健康診断を受けた際、便潜血検査で陽性となり、再検査が必要との結果が出ました。 再検査までの期間は、通常通り勤務を継続していました。	
2	昭和・平成 令和 5年 6月 15日 から 昭和・平成 令和 6年 2月 10日 まで 受診した ・ 受診していない 医療機関名 ABC市民病院	左の期間の状況 【精密検査・手術・入院・経過観察(定期受診)】 翌月、定期健診の結果を持参してABC市民病院を受診し、大腸内視鏡検査および他の精密検査を受けた結果、「S状結腸がん(大腸がんステージIV)」と確定診断されました。同病院にて「S状結腸切除術」と「一時的人工肛門(ストーマ)造設術」を受け、約1か月間入院しました。 現在も継続して抗がん剤治療を受けています。	
3	昭和・平成・令和 年 月 日から 昭和・平成・令和 年 月 日まで 受診した ・ 受診していない 医療機関名	左の期間の状況 【日常生活の状況】 ストーマでの排便は1日数回にわたり、健常時に比べて排便に時間と労力を要するようになりました。排便管理には専用のストーマ装具や衛生用品が欠かせず、定期的な交換も必要です。装具のズレや不具合により便が漏れ、衣類や寝具を汚してしまうこともあり、日常生活には常に注意が必要な状況です。衛生管理の面でも神経を使う必要があり、外出時にも装具・替え用品の持参が不可欠となっています。 また、抗がん剤治療の影響により体力が低下し、横になって過ごす時間も増えました。	
4	昭和・平成・令和 年 月 日から 昭和・平成・令和 年 月 日まで 受診した ・ 受診していない 医療機関名	左の期間の状況 【就労状況】 抗がん剤治療に伴う副作用(倦怠感や体力低下など)により、従来の業務に従事することが困難となり、やむを得ず退職しました。 現在は失業給付を受給しながら、体調や体力面に配慮した勤務が可能な職を探しています。	
5	昭和・平成・令和 年 月 日から 昭和・平成・令和 年 月 日まで 受診した ・ 受診していない 医療機関名	左の期間の状況	

※裏面も記入してください。